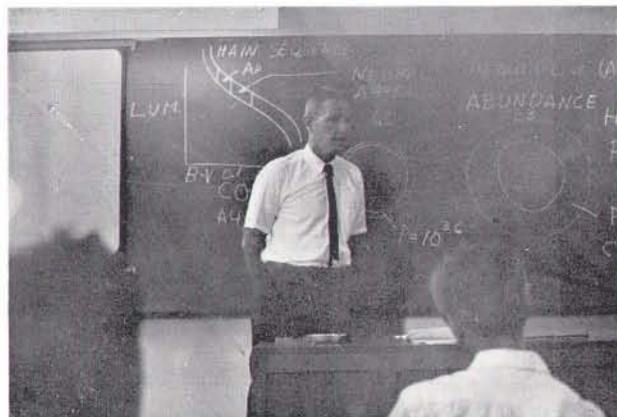


## アプト氏の来日

米国立キットピーク天文台のヘルマト・アプト氏は、カリフォルニア工科大学のバトリック・オズマー氏と一緒に8月3日来日し、数日間東京を見物した後、自動車で九州迄旅行した。(成相)



東大天文学教室の談話会で metallic-line star について講演するアプト氏(8月6日)(成相恭二氏撮影)

富士山頂にて。(8月8日)  
左はバトリック・オズマー氏、右 ヘルマト・アプト氏(成相恭二氏撮影)



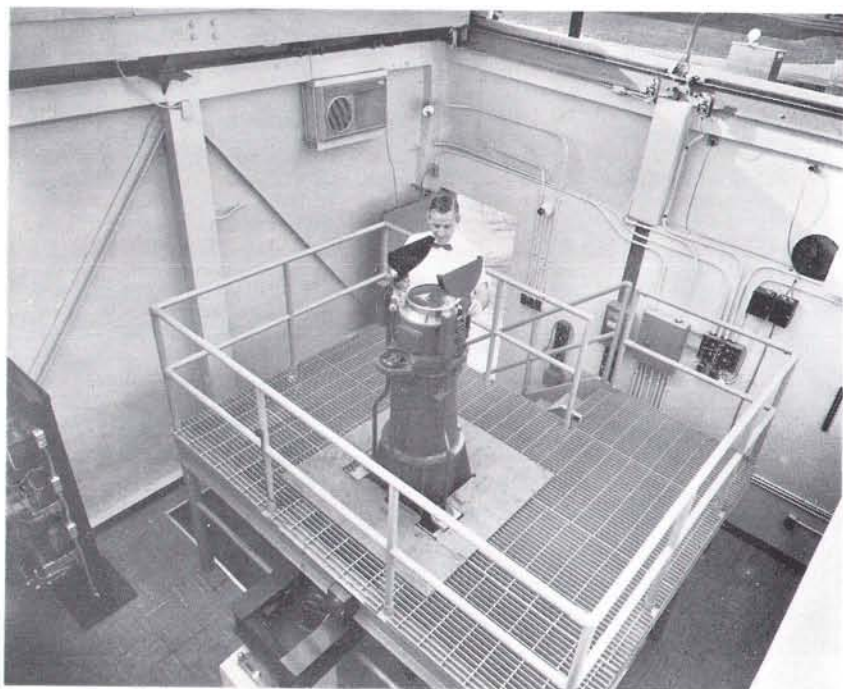
屋島展望台にて(8月14日)。右端は三沢邦彦氏(香川大学)。(石田五郎氏撮影)

オッタワおよびボルダークの保時・周波数標準施設

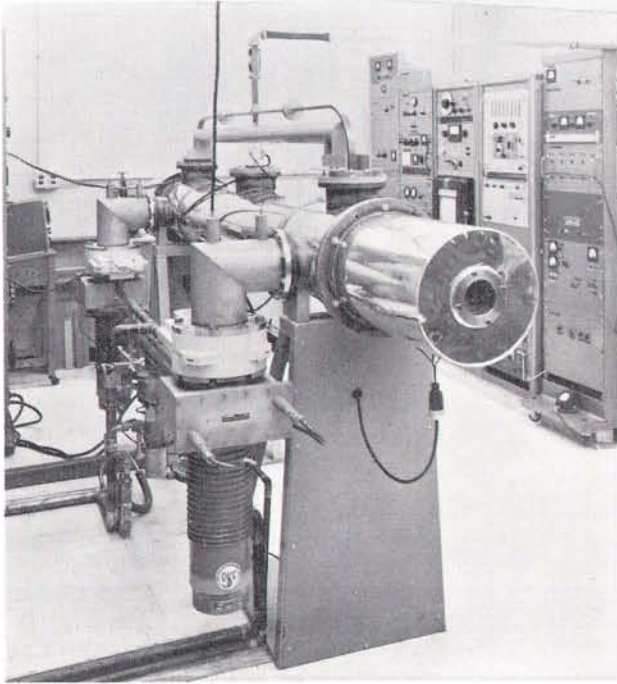
(飯島氏提供)



オタワにあるドミニオン天文台の水平子午環。水平に固定された鏡筒の代わりに、中央部の反射鏡をまわす。



オタワにあるドミニオン天文台のPZT。立っているのは位置天文部長の M. M. Thomson、レンズの上のものはカバー兼シャッターである。



オタワにある N. R. C. (国立科学  
研究会議) 応用物理部のセシウム  
ビーム形原子周波数標準。励振空  
洞の間隔は 210 cm.

ボルダー (コロラド州) にある N. B. S. (国  
立標準局) のセシウムビーム形原子周波数標  
準. 第 3 号機. 励振空洞の間隔は 366 cm.

